



## 産業廃棄物処理業ヒヤリハット 企業における具体的取組事例

長坂建設興業株式会社

安全衛生情報では会員各社へ伺い、社内における安全衛生の具体的な取組事例をご紹介します。

今回ご協力いただきました会員企業は、昭和32年西尾市吉良町にて「長坂建材」を創業され、昭和42年に「長坂建設興業株式会社」へ社名変更、『豊かな社会の構築に携わっていきたい』の精神のもと現在二代目代表取締役社長 長坂正志氏が61年の歴史を継承されています。基本理念として、安全・品質・環境方針を三本柱として掲げ、安全の基本は技術にあるとの信念に基づき、安全管理の徹底、作業に伴う事故・災害ゼロを目標とした労働管理の確立に取り組む、常務取締役 中嶋政秋氏、資源開発事業部課長兼碎石工場長 星野真吾氏にお話を伺いました。

### ◆安全衛生委員会（安全衛生委員20名）

9月度のスローガン

- ・新学期スタートの為、学童に注意する。
- ・台風、大雨等の天候に対処できるよう現場管理をしっかり行う。
- ・残暑がきびしい為、健康管理をしっかり行う。

### ▶安全衛生会議

1回/毎月 午後5時30分～ 社内会議室

### ▶安全衛生パトロール

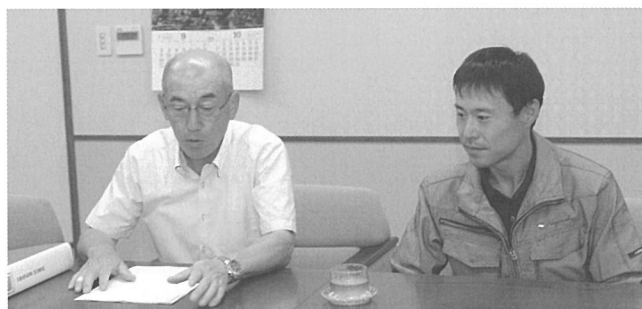
随時 午前8時30分～ 工事先・現場へ確認

### ▶一斉メールでの送信（注意喚起、連絡事項）

熱中症対策-経口補水液の摂取、休憩  
誕生月の社員への連絡-社員への感謝、メンタルサポート

### ▶安全衛生年間管理計画・重点施策

①安全衛生管理体制の整備と見直し

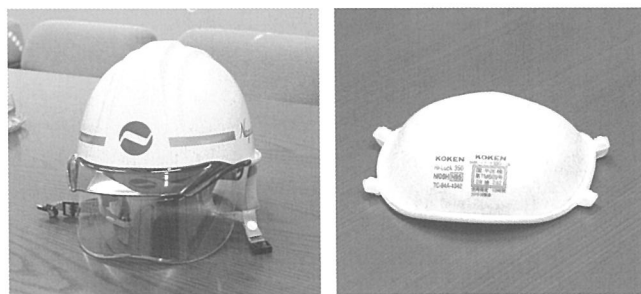


左から中嶋氏、星野氏

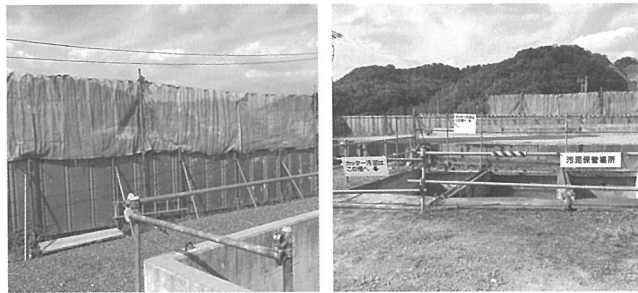
- ②安全衛生教育の計画科目・対象者の選定等
- ③安全衛生活動の手法及び見直し
- ④健康診断の完全実施と保持増進対策
- ⑤協力会社への教育等の実施
- ⑥その他安全衛生に係る行事（年間行事）

### ▶現場での装具（一例）

- ・ヘルメット  
ヘルメットに透明のシールドとつばが付き、頭上の確認、保護メガネとした長坂建設興業(株)のオリジナルヘルメット。
- ・防じんマスク  
国家検定合格のマスクを使用。鉱物性の粉じん、土石粉じんが発生する粉じんなどの吸入を防ぐために使用する粉じん作業用の防じんマスク。



・改良土センター



◆改良土センター

- ・自社トラックには交通事故防止のステッカーが貼付されており、ドライバーは自社オリジナルヘルメットを装着していた。
- ・汚泥を貯留槽に流し入れる際、汚泥が道路に飛び散らないよう防護壁の高さを防護ネットで上げ、外部への汚泥の飛び跳ね防止対策が講じられていた。
- ・汚泥処理を行う貯留槽の周りには転落防止柵を張り巡らし、落下防止対策が行われている。

◆砕石工場

- ・搬入車の受付兼現場担当の社員は、作業者に安全チェックの確認を常に声かけする。声をかけられることにより、忘れがちな安全点検を再確認し、災害事故発生の抑止力となる。
- ・砕石現場のコントロールセンターの女性社員も、自社オリジナルヘルメットを装着し作業を行っていた。眼下には巨大な砕石のベルトコンベアが縦横無尽に組み立てられ、ホッパーからは次々と製品化された砕石が排出されていた。ハードな環境下での社員の笑顔は周囲を和ませ、緊張感をときほぐす効果もある。



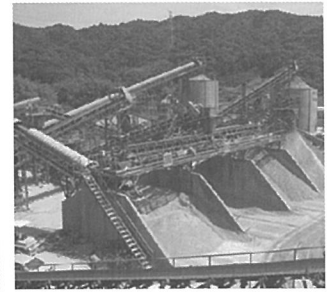
代表取締役社長 長坂正志氏

品質方針

- 一、顧客のニーズと期待を理解し、適切で迅速な対応をする。
- 一、安全を優先し、社員の能力を高め、高品質な施工を目指す。
- 一、コミュニケーションと創意工夫により、地域に貢献し永く信頼される企業となる。
- 一、顧客満足向上のため、品質マネジメントシステムを見直し有効性の継続的な改善をする。

長坂建設興業株式会社  
代表取締役社長 長坂 正志

・砕石工場



- ・工場社屋の壁面に大きく「今日も一日安全運転」と作業者全員の目にとまるよう書かれている。
- ・現場の車両出入口各所に立て看板が設置され、慣れてしまった作業者に向けて、注意を促している。
- ・砕石場から出る粉じんや道路の石を、所有の散水清掃車が一般道を清掃する。常に地元の方へ作業による影響を配慮し、地域貢献に尽力している。

災害事故ゼロの現場づくりを目指す

同社は広大な作業場を二か所保有し、各現場では大きな設備機器や多数の大型車両が日々稼働している。交通災害、労働災害ゼロを目指し、社員一同安全衛生委員会を中心として安全管理の徹底を図っている。また社員のメンタルに配慮したサポートを行うことにより、さらに災害事故ゼロへの期待が高まる。

